

令和6年度第1回厚木市立病院運営審議会会議録概要

- 1 日 時 令和6年6月18日(月)
午後6時30分から午後7時58分まで
- 2 場 所 厚木市立病院 A棟2階大会議室
- 3 出席者 <厚木市立病院運営審議会委員>
三宅会長、堀副会長、杉山委員、伊藤委員、長岡委員、笹生委員、
山口委員、佐藤委員
<厚木市立病院>
長谷川病院事業管理者、岸病院事業局長、渡部副院長、藤原副院長、
郡山副院長、小路経営管理課長、藤井病院総務課長、佐藤施設用度課長、
吉川医事課長、多田患者・がん相談支援センター長、
赤野経営管理課経営・経理係長、大村経営管理課主任、
加藤医事課医事係長、鍵和田医事課情報管理係長、有本医事課主任
- 4 病院事業管理者あいさつ
- 5 委嘱式
 - (1) 委嘱状交付
委員に対して病院事業管理者から委嘱状を交付した。
五十嵐委員、東浦委員の欠席を報告した。
 - (2) 委員あいさつ
 - (3) 病院職員紹介
- 6 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 審議会の規程説明
事務局から当審議会の規程及び会議録に氏名を公表する旨を説明した。
 - (3) 会議の傍聴者の有無
本日の審議会の傍聴希望者はなし。
 - (4) 審議会の開催の確認
委員の過半数の出席が確認されたため、審議会の開催が成立した。

(5) 会長及び副会長の選出

互選により、会長に厚木医師代表の三宅委員、副会長に厚木歯科医師会代表の堀委員が選出され、決定した。

(6) 議事 <各議題説明後、事前の質疑事項について回答>

議題(1) 第3次厚木市立病院経営計画の点検・評価について

資料1に基づき小路経営管理課長説明

本計画の点検・評価は、各年度に1回以上、本審議会に意見を求めることとしており、その結果を公表する。

点検・評価の基準は資料1の1ページ下段「2 点検・評価の基準」に基づき、令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）を実施した。

次に、点検・評価の総括として、2ページ下段（右側）点検評価表1では、収支改善、収入確保、患者確保、経費削減、質の向上、小児・周産期における計23項目の重要業績評価指標（KPI）の点検・評価の結果を集計しており、A区分が13、B区分が6、C区分が4となった。

次に、3ページ真ん中（右側）点検評価表2では、基本方針の代表的な指標24項目及び重点施策4項目の計28項について、点検・評価の結果を集計しており、A区分が19、B区分が5、C区分が4となった。なお、代表的な指標がKPIと重複している項目が13項目となる。

総括として、収益的収支は、経常収支が約3.1億円となり、4年連続で経常利益を計上した。資本的収支は、医療機器の更新を精査するなど、おおむね計画内の収支となるが、浸水防止対策工事関連の収支が前年度から繰り越されたことにより、増加した。これらの結果、現金残高は、予算に比べて約6.7億円増加するとともに、累積欠損金も減少したことで、財務の健全性が更に図られた。

今後は、引き続き、1日当たり入院患者数285人を達成すること及び外来単価を上げることが、健全な病院経営に向けて最大の課題である。

このため、救急医療体制の拡充を図るほか、地域の医療機関と「顔と顔の見える関係」の構築を更に推進することで、入院及び外来の収益を拡大し、経営強化を図る必要があると考えている。

議題(1) に対する委員から事前質疑について

別紙「令和6年度第1回運営審議会 質疑・意見について」のとおり、小路経営管理課長回答（1、2ページ、質疑1～7）

佐藤委員（資料1について）

①他会計負担金の状況について、②特別利益の増加要因について、③救急医療体制の拡充、逆紹介の推進、地域の医療機関との連携等について具体的な取組を考えているのか。

小路経営管理課長

収益的収支における負担金については内容、金額ともに大きく変わっていない。資本的収支については、浸水防止対策工事に係るものが前年度繰越となり、この分は当初予算になかったのが皆増となるので負担金としては約3億円増加している。なお、この3億円は市が負担したのではなく、国庫補助金として市が受けたものを病院へ負担金として出したものになる。

特別利益については、公営企業会計の会計処理的な部分となるが、長期前受金として計上できる金額のうち、過年度分の減価償却見合い分に当たる部分を特別利益として計上している。令和5年度は、この会計処理において、過年度分が増加したことによる。

(参考)

地方公営企業会計では、償却資産の取得に伴い交付される補助金、一般会計負担金等については、長期前受金として負債（繰延収益）に計上した上で、減価償却見合い分について順次収益化を行う。負担金等の収入時期及び金額と減価償却費には差異が生じることから、減価償却見合い分に対し収益化できなかった分は、後年度、負担金等の収入に応じて、過年度分の収益化額として特別利益に計上する。

吉川医事課長

救急医療体制の拡充については、救急科専門医を常勤で配置するなど、救急受入体制を整えるとともに、日々の受入件数の実績を確認し、幹部と情報共有している。

また、逆紹介の推進では院内の会議等で実績を示しながら、逆紹介を推進しつつ、医療機関の連携として、地域の医療機関を訪問する取組を実施している。

佐藤委員

給与費に関して、令和6年度の内容なので次の案件となるが、今回の診療報酬改定に伴うベースアップ評価料の取組状況は。

吉川医事課長

今月、ベースアップ評価料の届出を行った。なお、診療報酬としては外来・入院を合わせて6,700万円の収入増、一方で支出は9,000万円を見込んでいる。

佐藤委員

職員の賃金改善分の給与費は、令和6年度予算で見込んでいるのか。

藤井病院総務課長

令和6年度の当初予算積算時は今回の診療報酬改定の内容が未確定であったため、反映していない。今後、人事院勧告やベースアップ評価料に伴う給与費の増額については、補正予算を計上して対応していく。

杉山委員（資料1について）

材料費の増減要因として薬品費の減とあるが、薬品費の予算額は、
また、（資料2）令和6年度予算で材料費を増額した要因は。

小路経営管理課長

令和5年度の薬品費は当初予算で約14.9億円に対して、決算は約13.1億円となる。
また、令和6年度予算の材料費を増額した要因としては、レカネマブを約6,000万円分見込んで計上している。

佐藤委員

高額薬品の使用は単価に影響するが、その分は単価に反映しているか。

小路経営管理課長

レカネマブは外来での使用を想定しているため、外来単価に300円プラスしている。

（点検・評価の今後について）

小路経営管理課長

外部評価及び意見は、委員の皆様からの意見を基に、三宅会長と事務局で調整し、
皆様に確認をしていただいた後に公表したいと考えている。

三宅会長

事務局からの説明の流れで手続を進めてよろしいか。

→ 全員了承

議題(2) 令和6年度厚木市病院事業会計予算の概要について

資料2に基づき小路経営管理課長説明

収益的収入については、病院事業収益が121億1,000万円、前年度比2億5,300万円の増加。主な理由は入院及び外来の単価を引き上げたことによるもの。収益的支出については、病院事業費用が119億7,500万円、前年度比1億8,000万円の増加。主な理由は物価や賃金の上昇に伴う給与費と材料費の増加に加え、救急医療体制の拡充を図るため、新たに救急科専門医を常勤配置したことなどにより、給与費が増加した。結果、収益的収支については、差引1億3,500万円の黒字、前年度比7,300万円増加している。

また、減価償却費など、現金の収支を伴わない科目を除外した現金ベースでは、7億1,932万1,000円の黒字予算となる。

資本的収入については、12億1,700万円、前年度比1億4,100万円の増加。主な理由は、建設改良費の増加に伴い、企業債が増加したことや、国庫補助金を活用して行うLED改修工事について、補助金を負担金として受けることによるもの。資本的支出については、18億3,700万円、前年度比2億3,100万円の増加。主な理由は、医

療従事者公舎の外壁・屋上改修工事や、LED 改修工事等による建設改良費の増加によるもの。結果、資本的収支については、差引6億2,000万円のマイナスとなり、前年度比較では9,000万円、マイナス額が増加している。

なお、資本的収支のマイナス分は、収益的収支の黒字分で補填するため、予算全体の現金収支は、9,932万1,000円のプラスとなる。

議題(2)に対する委員から事前質疑について

別紙「令和6年度第1回運営審議会 質疑・意見について」のとおり、小路経営管理課長回答(2ページ、質疑1～3)

杉山委員(資料2について)

研究研修費が減額している要因は。

小路経営管理課長

令和5年度は、手術支援ロボットの導入に伴う招聘医師の報酬を見込んだことで増額しており、令和6年度はその分を減額している。

杉山委員

治験や受託研究に係る費用は含んでいるか。

藤井病院総務課長

同じく研究研修費に含まれている。

議題(3)地域医療支援病院承認要件の実績について

資料3～6に基づき吉川医事課長説明

令和5年度の実績は紹介率90.0%、逆紹介率89.2%で、地域医療支援病院の承認要件を全て満たしている。また、KPIの目標値に対しては、紹介率は10.5%、逆紹介率は6.7%、それぞれ目標値を上回っている。

共同利用の状況については、累計(前年度比)で、CT168件(+29件)、MRI85件(+12件)、RI(核医学検査)74件(▲6件)、放射線治療(リニアック)35件(±0件)で、合計362件(+35件)となっている。

地域の医療従事者に対する研修の実績については、年間12回以上の承認要件に対し、年間の回数要件は達成している。

議題(3)に対する委員から事前質疑について

別紙「令和6年度第3回運営審議会 質疑・意見について」のとおり、吉川医事課長回答(3ページ、質疑1、意見1)

佐藤委員（質疑1について）

がん患者の動向等を具体的に把握しているか。また、リニアックの稼働率を上げるために、何か検討しているか。

吉川医事課長

具体的な数字は把握していない。当院としては、手術支援ロボット導入や緩和ケアの充実などにより、受入体制の強化に取り組んでいる。

渡部副院長

稼働率については、過去には放射線治療の件数が年間約190件あったが、他院が放射線治療を開始してから、下がっている。また、常勤の放射線科治療医が在籍することが集患にとって重要であることから、引き続き、医局に医師の派遣依頼を行うが、全国的に放射線科医が不足している状況下で、難しい部分もある。

佐藤委員

近隣の病院では患者さんの集患のためのPRにとっても力を入れているので、その部分で差が現れているのかもしれない。

議題(4)その他 病院機能評価受審結果について

資料7に基づき藤井病院総務課長説明

中間的な結果報告による指摘事項（C評価：3.1.6 診療情報管理機能を適切に発揮している）は改善を図り、報告書を提出した。今後、補充的な審査終了後、令和6年8月中旬頃までに審査結果が通知される予定である。

佐藤委員

受審した病院機能評価のバージョンはいくつか。また、コンサルを入れて受審をしたが、その点についてはどうか。

藤井病院総務課長

バージョンは3rdG:Ver.3.0である。

吉川医事課長

コンサル業者から提供されたサービスを活用しながら、受審に向けて準備を進め、様々な改善を図ることができたが、結果としては1項目C評価となっている。

議題(4)その他 委員からの事前質疑（2件）について

別紙「令和6年度第1回運営審議会 質疑・意見について」のとおり、質疑1を小路経営管理課長、質疑2を吉川医事課長回答（4ページ、質疑1、2）

佐藤委員（質疑1について）

2040年には、全国的に高齢者の人口が大幅に増えていく。急性期医療を提供する病院に要介護状態の患者さんが入院することが想定されているため、国では地域一体で医療を提供する体制を構築する必要があると考えている。現在、地域との連携等の取組について実施又は検討しているか。

吉川医事課長

患者支援センターでは、地域の施設訪問や県が提供するサービスを活用するなどして地域との連携を進めている。

佐藤委員

近隣に認知症専門の病院があるが、連携をしているか。

多田患者・がん相談支援センター長

現在のところ、具体的な連携等はない。なお、認知症の疾患に関連した会議の場では、高齢者や認知症の患者さんに対して、当院がどのように携わるか課題となっているため、今後検討をしていく必要がある。

三宅会長

厚木医師会としても、行政機関、高齢者施設、在宅施設などと連携し、メディカルビッグネットなどのシステムも活用しながら、地域一体となり取り組むべき課題であると認識している。

(7) その他（事務局からの連絡事項）

経営管理課大村主任

議題（1）外部評価については、三宅会長と調整の後、委員の皆様には照会させていただいたので、御意見をお願いしたい。また、第2回会議については、8月中旬に開催を予定している。いずれも、詳細は改めて事務局から案内する。

7 閉会

堀副会長あいさつ